

昨年度の「指導改善プラン」の検証（成果と課題）

- 各教科のめあてや活動の目的を明確にして授業を進めることで、主体的に学びに向かう姿勢が見られた。
 ▲児童の実態や課題に応じた指導や支援を行う個別最適な学びを実現していく。
 ▲交流や話し合い活動を通して、多様な考えに触れながら学びを深め、協働的な学びの充実を図る。

全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○基礎的な知識・技能が概ね定着している。 ▲自分の考えを文章で表すことを苦手としている児童が多く、書くことに課題が見られる。 ▲記述で解答すること、応用問題において課題が見られる。	○総合的に見ると、学習内容の定着がうかがえる。 昨年度より話すこと・聞くことの領域が伸びた。 ▲言葉・情報・言語文化や書くことの領域に課題がある。	○総合的に学習内容の定着が見られる。特に昨年度課題だった話すこと・聞くことが大きく伸びた。 ▲他の領域と比べると書くことにやや課題がある。
社会	○基礎的な知識・技能が概ね定着している。 ▲文章や資料を読み取ることを定着させ、応用力を高める。記述式の問題に課題が見られる。	○総合的に学習内容の定着が見られる。 ▲資料やグラフを読み取り解答する問題に課題が見られる。	○昨年度に課題だった知識・技能に一定の成果が見られ、基礎力が身に付いている。 ▲短答式の出題形式にやや課題がある。
算数	○基礎的な知識・技能の定着が見られた。 ▲式の意味を正しく理解できていない児童が多い。□を使った計算問題にやや課題が見られる。	○データの活用領域で定着が見られた。 ▲数と計算や変化と関係の領域に課題が見られる。	○計算やデータの活用で定着が見られた。 ▲図形と変化の関係の単元にやや課題がある。
理科	○基礎的な知識・技能の定着が見られた。 ▲記述式の出題形式や応用問題に課題がある。	○全ての観点・領域で定着が見られた。 ▲記述式の出題形式にやや課題がある。	○全ての観点・領域で定着が見られた。 ▲記述式の出題形式にやや課題がある。

授業改善の方針

国語	・語句の意味や使い方を調べて短作文等に表現する活動に継続的に取り組み、語句を正しく活用する能力を高める。 ・根拠を明確にして自分の考えを書く力を高めるために、授業の中で自分の考えを整理したり深めたりする時間を十分に確保し、「書くこと」の指導の充実を図る。 ・読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめて交流したりする活動を通して「読む力」の向上を図る。
社会	・グラフや図表などから様々な事象を読み取る機会を増やし、情報を適切に活用する力を育てる。まとめて記述する力を育てる。 ・実物に触れるなどの体験的な学習を取り入れる。 ・対話的な学びの時間を設けることで、自身の考えを深めたり、表現したりすることができるようにして、児童の思考力・表現力の向上を図る。
算数	・授業のめあてを明確にし、既習事項を使って粘り強く問題解決をしていく姿勢を育てる。 ・つまずきの原因を知り、コースに合わせて指導法や指導形態の工夫をしながら個に応じた指導の充実を図る。 ・問題文から必要な事柄を取り出したり既習事項を見出して問題に当てはめたりしながら解けるような学習を意図的に取り入れ、統合的、発展的に考える力を身に付ける。 ・児童が問題解決の過程を見通しながら主体的に学習できるよう、授業展開を工夫する。
理科	・実験や観察の目的を明確にして、児童が課題意識をもって学習に取り組むようにする。 ・結果をもとに考察し、自分なりに実験や観察のまとめを表現する授業を展開することで、自身の考えを文章として表現する能力の向上を図る。
音楽	・協働的な音楽活動を通して、表現しようとする意欲を引き出し、音楽的な知識や技能を高める。 ・児童の主体性をより高められるよう ICT 機器を活用し、個別最適化を図る。
図工	・様々な材料や用具に触れたり身体性を重視した活動を多く取り入れたりとすることで、より実感できる学習過程を重視し表現力を伸長する。多様な表現活動を経験することや、自己決定する場面を増やすことで自己肯定感を高めていく。 ・鑑賞活動を通して自他の良さを認め合うことができる環境を整え、言語化する力も身に付ける。児童作品を校内各所に展示することで自然な相互鑑賞の場を設け、多様な価値観に触れたり自己肯定感を高めたりする。
家庭	・製作や実習の時間を充実させ、技能に自信のない児童への丁寧な個別指導を図る。 ・様々な学習場面で、児童同士が協力し教え合うことを促し、思考力・表現力を伸ばしながら、知識や技能を身に付けることができるようにしていく。また、家庭と連携して、児童の技術向上を図る。 ・生活を豊かにするための課題、計画、実践、評価・改善のサイクルを基本に学習を進める。
体育	・めあてや見通しを明確にし、児童が課題を見出し、主体的に取り組める授業を展開する。 ・学年の実態に応じた場や用具、ICT を効果的に活用し、一人一人が学びやすい環境を整える。 ・体育的な見方、考え方を働かせ、「する・みる・知る・支える」の視点を大切にしながら自己調整し、学び続ける力を身に付けさせる。
外国語	・外国語に苦手意識をもつ児童も楽しく学習できるように、ALT と協力し、聞く話す活動のバランスを考えて計画する。 ・高学年は、4線を意識し、正しくアルファベットを書くことができるよう繰り返し書く活動を設定する。 ・自信をもって発話できるように、必然性をもって発話できる活動を設定し、何度も学習した表現を使用できるようにする。 ・自己の学習を振り返る時間を設定し、自分の力を高めるためにどのように学習していくか見通しをもたせる。